

ランチオンセミナー13

+各種セメントレスステムの選択 -
Fully HA-coated compaction stem
への期待

2021年7月8日(木) 12:30 - 13:30

会場：第4会場 (パシフィコ横浜ノース3F G303 +304)

座長：富山県立中央病院 整形外科 部長

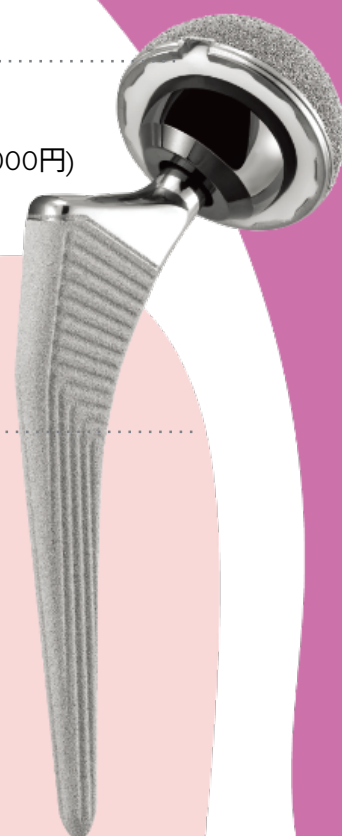
中村 琢哉 先生

演者：獨協医科大学埼玉医療センター 整形外科 教授 神野 哲也 先生

日本整形外科学会 教育研修会のいずれか1単位が取得できます。(受講料 1講演 1,000円)
専門医資格継続単位

■必須分野：[11] 骨盤・股関節疾患

共催：第51回日本人工関節学会/スミス・アンド・ネフュー株式会社



✦各種セメントレスステムの選択 - Fully HA-coated compaction stemへの期待

獨協医科大学埼玉医療センター
整形外科 教授
神野 哲也 先生



人工股関節全置換術（THA）はその安定した成績から “The operation of the century” とも言われ（Lancet 2007）、股関節疾患に対する標準的術式となっています。非セメント固定インプラントが約 9 割を占めますが、ステムは様々なものがあり、2011 年のレビュー（Khanuja et al. JBJS-A）ではその基本形状や固定様式などから 8 種類に分類されています。その中で、初回 THA 用として多くの症例に第一選択とされてきたのは single wedge 型や double wedge metaphyseal filling 型で、いずれも大腿骨近位での荷重伝達を意図してデザインされています。一方、世界的に広く用いられているもののなぜか上記のレビューに含まれなかったものとして、fully hydroxyapatite (HA)-coated compaction stem と呼ばれるステムがあります。

- ①ステム全長の HA コーティング、
- ②リーミングせず、ブローチで海綿骨を圧縮形成する手技、
- ③カラー付き、

といった特徴が挙げられますが、①以外は機種により違いがありますし、また HA コーティングの厚さや母床の表面加工、テーパー形状なども一律ではありません。骨リモデリングが少ない (“silent stem”) とも言われますが、こういった特徴が何に寄与しているのか、必ずしもよくわかってはいないようです。

セメントレスステムにおける今日残された課題は何か（術中骨折？ Dorr type C 対策？ 応力遮蔽？ 挿入や抜去の容易さ？・・・）、上記ステムでそれらの問題がどの程度解決できるのか、できるとすればその機序は何か、等々、疑問が尽きないのではないのでしょうか。私が明快な答えが持っているわけではありませんが、報告されている事実を紐解き、できるだけ整理してみたいと思います。